



なぜなぜシリーズ その二十



フキノトウ...あなたは爺か？姑か？

もうすぐ、早春の使者として、フキノトウを使う季節になりますね。私は、40歳くらいまで、あの、ほのかな苦味が、とても美味しい物とは思えませんでした。しかし、ここ最近「あの苦味」が本当に美味しいと思えます。コレって、年齢を重ねたってことなののでしょうか？



昔から「春の料理には、苦味を盛れ」と言われます。春の山菜類には「苦味」を含む物が多いのですが、この「苦味」を食べるのには、ちゃんとした理由があるのです。



秋田県の花：ふきのとう
別名「バツケ」

人間の身体は、冬の間、寒さから身を守る為、また少なくなる食料に備える為(遺伝子レベルで身に付いているそうです)、脂肪や塩分を蓄えます。春になり暖かくなると、今度は夏の暑さに備えて脂肪や塩分を減らすように働くのだそうです。

その助けとなるのが、「苦味」のある山菜なのです。特にフキノトウは、苦味成分のアルカロイドが多く、新陳代謝を活発にしてくれます。また、男性諸氏には朗報？なのですが、フキノトウには、精子数を増やし、いわゆる“春情”を催す効果があるそうです。フキノトウを入れた“落味噌”は昔から隠れたスタミナ食として伝わっています。

またフキノトウは、民間療法として、咳止めやタン切りに昔から使われています。苦味を始めとして様々な有効成分が含まれているようです。江戸時代の農学者も「花(落の)は薬となす」と言っていたのだとか。昔の人の知恵には本当に頭が下がります



ふきのとうの雄

ふきのとうの雌

フキノトウには雄株と雌株があって、蕾が黄色っぽくて丸いのが雄株、白っぽくてとんがったのが雌株だとか。落味噌のように、湯がいてすり潰すには、どちらでも良いのですが、天麩羅にするには、ちょっと開きかげんの“雄株”が美味しいのだそうです。

フキノトウは、俗に、落の爺(じい)とか、落の姑(しゅうとめ)と呼ばれます。雪が無くなると、フキノトウは急に伸びる為、麦踏み(根張りの良い株を育てるため)と同じ様に土を割って出てくる頃に踏み付けると、良いフキノトウが育つからだそうです。諺に「麦と姑は踏むがよい」なんてものがあります。これは、「出すぎる姑を麦のように踏む」から来てるのだとか。



今月の”こんなんありました～”

1月の後半、4日程、関東方面に出張していました。今回初めて、東京都庁の地下のお店で昼食を食べてみたのです(田舎もんですね～)。東京に行くときよく通るのですが、時間が合わず、いつも横目で見つつ通り過ぎてました。

昼には少し早い11:30、目に付いた「そば屋」さんに入りました。まだ店内はガラガラ。早速、蕎麦を頼んですると…おっ、意外にイケるやん！正直、あまり期待していませんでした。場所も場所だけに…ゴメンナサイ。



更科そばなので、香りは強くありませんが、そばの甘味がしっかり感じられ、コシもあって満足満足。出汁も思ったほど濃くなく(何年か前に、真っ黒な出汁で辟易したことがありました)美味しかった。

私が店を出る頃には、満席になっていました。周りからは、都庁に関係のある業者とおぼしき方々の話し声が聞こえてきます。「年度末までに入れ込まないとねえ～」とか、う～ん、生々しい

館内放送も良く聞こえます。「今年度復活折衝説明会？の関係者の方はこちらも生々しい(笑)。なんか、テレビの世界の話が、身近に感じられます。

へ、お集まり下さい」…



東京都赤十字血液センター



店を出ると、周りの店は、どこも長蛇の列。早めに入って良かった～。ふと、前を見ると常設の「献血センター」がありました。時間があったので、献血することに。



献血そのものは、どこでも一緒ですが、ここは待遇？が違いました。採血が終わると、女性が「飲み物は何になさいますか？」と聞いて出してくれます(もちろん、おかわり自由)。そして、チーズケーキが1つずつ配られます(こんなの初めて！)。テーブルの上にある、お菓子類も、もちろん自由に食べられる。最後には、なんと、レトルトカレーとパックのご飯がセットで”お土産”としてもらえました。今まで、献血で、こんなに良い「待遇？」の記憶はありません。

東京だからでしょうか？常設だからでしょうか？面白い体験をしました。

いつも通る所も、ちょっと脇へ入ってみると、新しい発見があります。普段の仕事にも、この視点を忘れないように心がけたいと思います。

お客様の声をお聞かせ下さい！

お客様の声をいただくことが、私たちにとって、なによりもの励みです。あなた様の声が励みとなって、今日も頑張ろうという元気が湧きます。どんな些細の事でも結構です。ぜひ、あなた様の声を聞かせてください。

ぜひ、今後の改善の参考にさせていただきたいと思います。

このまま、FAX番号 078-903-3821 までお送り下さい。

お客様の声

御社名 _____

お名前 _____

このまま今すぐファックス

078 - 903-3821

(24時間受付)

FAX⇒078-903-3821